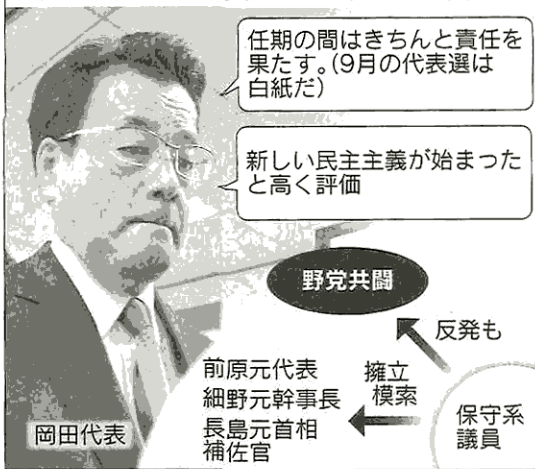


参院選から一夜明けたを探るが、党内では選挙11日、民進党内で9月予結果に不満を抱き対抗馬定の代表選をにらんだ駆け模索する声も出ておけ引きが始まった。岡田り、前原誠司元代表ら保克也代表は続投の可能性守系議員の名がささやか

民進党代表選に向けてじわりと動き出した



# 岡田氏側「大惨敗を回避」

# 民進代表選「共闘」が争点

# 反執行部「新しい顔必要」

れる。次期衆院選をにらみ、共産党との共闘路線の是非が最大の争点になる見通しだ。

岡田氏の周辺は11日、野党共闘について「実現していなかったら大惨敗していたのは明らかだ」と強調した。枝野幸男幹事長はNHK番組で「自民党が強いと言われている東北を中心に一定の成果を上げた」と語った。

同党は共産、社民、生馬を明言しておらず「現時点では白紙」。与党に

よる改選過半数(61議席)や改憲勢力3分の2の阻止に失敗し、党内に責任を問う向きがある。

同党を支持する連合の神津里季生会長は記者会見で「最悪の状況からは脱したが、国民の思いを全面的に受け止められなかったのも事実だ」と指摘した。

岡田氏は次期衆院選でも野党共闘が選択肢の一つとの認識を示している。

共産党の志位和夫委員長も「最初の挑戦としては大きな成果があった。さらに発展させたい」と秋波を送っている。

共産党との共闘に否定

的な議員からは、岡田氏への対抗馬の擁立をめざすべきだとの声が出ている。想定しているのは前

原氏や細野豪志元幹事長、長島昭久元首相補佐官らだ。中堅議員は「新しい顔で党を変えないといけない」と主張する。

長島氏は11日、都内で記者団に「共産党と共闘すべきか疑問を持っている。代表選で有力な争点の一つだ」と述べた。

岡田氏の周辺は「細野氏が幹事長だった13年の参院選は過去最低の17議席だった。党を任せられない」とけん制する。連退と党の解散を表明した。

参院選で厳しい結果に終わった少数野党も再び動き始めた。社民党は落選した吉田忠智党首が支援者への挨拶回りを重ねた。

日本のこころを大切にする党は「改憲勢力3分の2を占めたのを受け、誇りある日本をつくりあげられるよう国会活動に全力を尽くす」との談話を発表。自身も落選した新党改革の荒井広幸代表は記者会見で、政界引退と党の解散を表明した。